

東濃農林事務所の普及活動状況

令和7年1月

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■高温対策 水稲高温対策研修会の開催

近年、全国的に夏期の猛暑により水稲の品質低下が生じている。今年度、東濃管内においても猛暑の影響で、米の粒の中のでんぷんがうまく作られず白く見える「白未熟粒」が多く見られ、品質低下を招いた。そこで、JAとうとは1月31日に東濃管内の水稲担い手農家20名を集め、水稲高温対策の研修会を開催した。研修会において全農岐阜とJAとうとは、試験圃場の調査結果から「白未熟粒が多く見られ一等米比率が低下した」と報告し、農業普及課は、水稲高温対策について適切な追肥のタイミングなどの情報提供を行った。また、農研機構「中日本農業研究センター」から講師を招き、水稲高温対策の講演会も行われた。講演会では、白未熟粒軽減対策について、猛暑時における地温を下げる水管理の方法や比較的高温に強い「高温耐性品種」の特徴など、今後の栽培管理の参考となる内容が紹介された。

農業普及課では、今後もJAとうとはをはじめとする関係機関と連携し、水稲の品質向上に向けた取り組みを支援していく。

■地産地消 学校給食への地元農産物の導入

多治見市は、月1回「たじっこ給食の日」として地元農産物を学校給食に利用する日があり、地元産のお米の魅力を伝えるため、多治見市産のお米がふるまわれている。今回は、お米を提供した市内の農業者が昼食時に小学校を訪れ、児童への地元産米のPRを行った。農業者は、30kgのお米の袋を見せながら「本日のお米が多治見市産であること」や「お米作りの魅力」についてPRした。児童からは、「多治見のお米は美味しかった」「30kgは重たくて持てない」などの感想が聞かれた。

農業普及課では、引き続き地元農産物の学校給食への導入など地産地消の取り組みを支援していく。